

症状マネジメント論

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：演習

単位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：患者が自分の症状をセルフマネジメントできるように、患者にとって必要な知識・技術を提供し、看護支援を用いてマネジメントを促進する方法を実践的に修得する。

- 到達目標**：①看護における症状マネジメントの概念と看護の役割について理解し事例で展開できる。
②様々な症状の定義と発生機序、臨床症状の診方、臨床検査データの読み方が理解でき、これらを統合して症状をアセスメントできる。
③患者の症状体験に配慮したコミュニケーションスキルを修得できる。
④患者のセルフケアと看護師のセルフケア支援によって症状マネジメントを進める方策を立案できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎貝谷 敏子・菅原 美樹・村松 真澄・神島 滋子・工藤 京子・小坂 美智代・藤井 瑞恵・柏倉 大作

■**授業計画・内容**：

- 第1・2回 コースオリエンテーション、症状マネジメントとは、臨床検査データの読み方の基本
第3・4回 発熱／悪心・嘔吐のある対象の症状マネジメント
第5・6回 発熱のある対象の症状マネジメントの実際
第7・8回 排尿・排尿障害／呼吸困難のある対象の症状マネジメント
第9・10回 排尿・排尿障害／呼吸困難のある対象の症状マネジメントの実際
第11・12回 褥瘡のある対象の症状マネジメント／褥瘡のある対象の症状マネジメントの実際
第13・14回 意識障害・痙攣／胸痛・動悸のある対象の症状マネジメント
第15・16回 意識障害・痙攣／胸痛・動悸のある対象の症状マネジメントの実際
第17・18回 掻痒感・睡眠障害／脱水・浮腫のある対象の症状マネジメント
第19・20回 脱水・浮腫のある対象の症状マネジメントの実際
第21・22回 頭痛・眩暈／咳嗽・喀痰の対象の症状マネジメント
第23・24回 咳嗽・喀痰の対象の症状マネジメントの実際
第25・26回 倦怠感／摂食・嚥下障害のある対象の症状マネジメント
第27・28回 摂食・嚥下障害のある対象の症状マネジメントの実際
第29・30回 まとめ

■**教科書**：小田正枝編著：症状別アセスメント・看護計画ガイド 照林社

■**参考文献**：鈴木久美他編：成人看護学 慢性期看護第2版 南江堂
講義の中で別途配布・提示します

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
定期試験	◎	◎		◎	授業内容の理解	40%
実技試験	○	◎	◎	◎	症状マネジメント技術の実践	30%
レポート・演習		◎	○	◎	レポートと演習内容をループリックで評価	30%
出席					2/3以上の出席	失格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず
レポートと演習内容はループリックで評価予定

■**関連科目**：形態機能学Ⅰ・Ⅱ、病理病態学、観察技術論、感染予防論、薬理学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：詳細は初回の講義でオリエンテーションします。各症状に関する講義の後、ミニテストで知識を確認し、演習を行います。演習では1年次に学修した観察技術論の知識と技術が基本となりますので、再確認しながら演習に臨むことを期待します。